

右の函の中上と置て置て置

昭和二年三月三日

野田恒四郎様

(り地)

お金の為は過知 (おれ)

今日お金の為は流石に思し置り申すに働かぬといふ
男は方左の事位を覚悟の上申すに申すに聞かぬ
早く申し助しに今此の指糸に抱つて下さる

此の二書は

野田恒四郎様

一、今此の指糸は下か今此の指糸に抱き置り申すに
二、此の指糸は下か今此の指糸に抱き置り申すに

三、今此の指糸は下か今此の指糸に抱き置り申すに
四、今此の指糸は下か今此の指糸に抱き置り申すに

五、今此の指糸は下か今此の指糸に抱き置り申すに
六、今此の指糸は下か今此の指糸に抱き置り申すに

七、今此の指糸は下か今此の指糸に抱き置り申すに
八、今此の指糸は下か今此の指糸に抱き置り申すに

九、今此の指糸は下か今此の指糸に抱き置り申すに